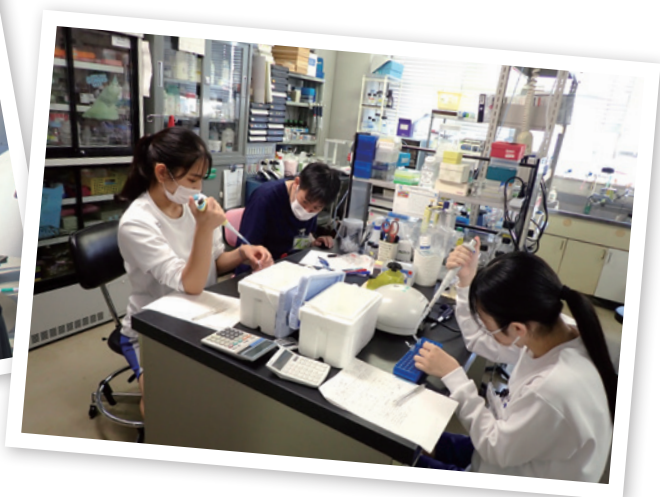




多様化する医学部受験
医科大学附属高校という
新たな選択肢



早くから医師を目指している 医師の家庭なら検討したい 大学附属高校からの「推薦入学」

子どもを医学部に進学させたいと考えている医師家庭は多いと思います。安定性のある資格としての医師人気のかつてない高まりに加え、大学入試改革の影響により面接試験のウエイトが増すなど、ますます入学へのハードルは高まっています。そこで注目されるのが、医学部を持つ大学の附属高校からの内部進学という選択肢。親子で医師を目指す家庭にとって、進路選びの参考となる最新の医学部受験情報と医学部に内部進学できる大学附属高校について紹介します。

医学部志願者の増加ペースはやや鈍化

ここ十数年に渡り、大幅な増加を続けてきた志願者数にやや変化が見られました。2023年の秋に実施された河合塾第3回全統共通テスト模試における学部系統別の志願者数では、少子化で新規高校卒業見込者数は毎年減少し続けていますが、医学部志願者は国公立大学・私立大学ともに前年比103%となりました。1年前の同じ模試を見ると、国公立大学は118%、私立大学は112%となっていたことから、少し医学部人気は鈍化した印象を受けます。

医学部人気が少し鈍化した背景には、現在の高校2年生から始まる「新課程」入試の影響が少なからずあるのではないのでしょうか。2024年度入試に臨む高校3年生および高卒生は、できることならば最後となる2024年度の現行課程入試で合格したいと考えており、そのために大学や学部選択において「安全志向」が働いたことで、医学部を避けて歯学部などの他学部に流れている可能性があります。やや鈍化したとは言え、表1にあるように依然として医学部は高い人気を誇り、難関であることに変わりはありません。

全医学部が偏差値60以上の難関に

2024年度に医学部へ合格するために必要な学力、いわゆる“ボーダー”の数値をまとめたのが表2です。国公立大学は、合格可能性が50%となる共通テストの得点率と前期個別試験の偏差値を示しています。共通テストのボーダーライン得点率は、2024年度に実

施された共通テスト本試験受験者の中で、河合塾の自己採点会に参加した人のデータとこれまでの各大学の合否追跡などを基に作成、また個別試験ボーダーライン偏差値は、河合塾の全統模試を基準にしています。

私立大学医学部へ合格するためには、最低でも偏差値60以上が必要とされます。つまり昔のように偏差値50前後で合格できる医学部はなく、ごく一部の受験生を除いては、滑り止めとなる医学部はないと考えてよいでしょう。

医学部は大学入試改革の影響が大きい

2021年度から始まった改革の影響も重要です。大学入試において、新たに「主体性」等の評価を追加することになりました。これまでは、英語や数学などの学科試験の成績で合否判定を行う入試でしたが、新たな評価基準に加えられた「主体性」等では、部活動や生徒会活動、ボランティア活動など科目の勉強以外が評価されることになったのです。医学部入試の場合には、この「主体性」等の評価が一般学部 비해、大きなポイントになると言われています。なぜならば、医学部は選抜方式に関わらずすべての大学で「面接試験」が実施されており、「主体性」等の評価には面接試験がとて適しているからです。

2021年度から2023年度の入試では、高校生活がコロナ禍にあったために、「主体性」等の評価を見送る大学もありました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大もほぼ収束して高校生活も通常に戻ったことで、「主体性」等が面接試験での評価における大きなウエイトを占め

表1 私立大学医学部医学科一般入試倍率ランキング(上位)

大学名	募集定員	志願者	倍率
帝京大	86人	6902人	80.3倍
東海大	60人	3600人	60.0倍
金沢医大(前期)	72人	3490人	48.5倍
関西医大(前期)	55人	2224人	40.4倍
東邦大	70人	2820人	40.3倍
獨協医大	57人	2250人	39.5倍
順天堂大(A方式)	64人	2180人	34.1倍
福岡大	65人	2127人	32.7倍
昭和大(1期)	83人	2674人	32.2倍
東京医科大	79人	2537人	32.1倍
岩手医大	73人	2217人	30.4倍
埼玉医大(前期)	60人	1764人	29.4倍
国際福祉医療大	105人	3027人	28.8倍
杏林大*	102人	2933人	28.8倍
川崎医大	45人	1284人	28.5倍
近畿大(前期)	55人	1522人	27.7倍
聖マリアンナ医大(前期)	87人	2354人	27.1倍
北里大	72人	1921人	26.7倍
日本医大(前期)	72人	1810人	25.1倍
大阪医科薬科大(前期)	75人	1802人	24.0倍

※各校HPを基に編集部作成

*地域枠含む

表2 国公立大学医学部医学科入試難易度

共通テストボーダー得点率	大学名
92%	東京大(72.5)
90%	東京医科歯科大(70.0)、京都大(72.5)
89%	大阪大(70.0)
88%	神戸大(67.5)
87%	千葉大(67.5)、名古屋大(67.5)、大阪公立大(65.0)、九州大(67.5)
86%	東北大(67.5)、横浜市立大(67.5)、奈良県立医科大(一)

※河合塾Kei-Net「入試難易度ランキング表(2024年1月現在)」より抜粋
※()内は、前期個別試験のボーダーライン偏差値
※前期日程の掲載 ※地域枠等を除く

表3 附属校からの医学部医学科内部進学者数(上位)

学校名(所在地)	男・女・共学	卒業生数	医学科進学者数
川崎医科大学附属高等学校(岡山)	共学	25	24*
慶應義塾高等学校(神奈川)	男子	724	22
東邦大学付属東邦高等学校(千葉)	共学	310	20
獨協高等学校(東京)	男子	191	11
慶應義塾志木高等学校(埼玉)	男子	237	7
慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川)	共学	232	7
福岡大学附属大濠高等学校(福岡)	共学	634	6
東海大学山形高等学校(山形)	共学	304	5

※各校HPを基に編集部作成

*補習科からの進学者を含む実績値

る可能性が高いと言えます。

医学部入試の面接試験では、①医師になりたいという意欲・自覚、②医師としての適性・資質、③患者や他科の医師、看護師など医療関係者とのコミュニケーション能力、協調性、④将来の医師像一などが評価されます。個人面接、集団面接、集団討論、MMIなど多様なパターンがあり、受験する大学に応じた形式で模擬面接を練習しておくことが重要になります。その際、大学のアドミッションポリシーや建学の精神について質問されることもあり、受験校の研究をしておくことが大切になります。

9割が医学部に内部進学する附属高校

大学入試改革の影響による面接対策の重要性が高まるなど医学部入試を取り巻く状況を踏まえると、やや志願者数の増加率が鈍化したとは言え、一般受験で合格を勝ち取るのは本当に至難の業です。そこで早くから医師を目指すことを決めている医師家庭が検討してほしいのが、医学部のある私立大学の附属高校からの内部推薦制度です。

内部進学の場合、一般入試に比べ試験科目が少なく、

問題も解きやすいものが出題される傾向があり、入試のために費やす時間や労力は比較的軽いと言えます。

一方で、附属高校からの内部進学であっても医学部は狭き門であることに違いはありません。例えば私立最難関の慶應義塾大学医学部の場合、体育や音楽などを含めた全科目の評定平均が入学時から上位3%以内をキープすることが基準となっています。

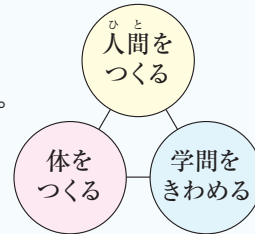
しかし在校生の9割が医学部へ内部進学できる高校があります。全国で唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校です。2022年度の卒業生は、25人中24人が内部推薦で医学部医学科へ進学しています(表3)。

川崎医科大学附属高校に入学するには、学力とともに良医になりたいという高い志が求められます。そして入学者全員が医師を目指すため、少数精鋭の全寮制を導入しており、医学部進学を想定したきめ細やかな早期医学教育が実践されているため、高校生のころから医師に必要な基礎学力を身に付けることができるカリキュラムが揃っています。早くから医師を目指すことを決めている医師家庭にとっては、受験を検討する価値のある高校と言えるでしょう。



高校から歩み始める『良医』への道

知性と人間性を磨き、『良医』と呼ばれる医師の基礎を育む。
それが私たち川崎医科大学附属高等学校の使命です。



難化が続く医学部受験において、選択肢として考えたのが、全国唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校だ。推薦制度による同医科大学への進学率が9割を超えるという同校の竹田義宣校長に話を聞いた。

高校から歩み始める『良医』への道

— 学校の特長について教えてください。

本校独自の教育プログラム「ドクターロード」です。本校は、創設者である川崎祐宣先生の「『良医』になるための人間教育を行う場として、医科大学と同時に附属高校を作らなくてはならない」という熱い思いを実現するために開校しました。ドクターロードは良医を育てるためのプログラムとして13年前から始まり、川崎医科大学と連携した全員参加型の体験型授業です。生徒たちが本物に触れ、本物を体験できる早期医学専門教育という性格を持ち、昨年日本医学教育評価機構から高く評価されたと聞いています。

良医を目指すプログラム「ドクターロード」

— どのようなプログラムがあるのでしょうか。

プログラムは、医師へのインタビューや医科大学体験実習など「なぜ医師になるのか」「どんな医師になりたいのか」を考え、医学教育へのモチベーションを高めるような内容になっています。ドクターロードでは、医科大学の先生方が本気で後輩を育てようと向き合ってくれています。ある年の入学式で、生徒会長が新入生に歓迎の言葉として、「他校の生徒は3年間で

職業選択を考えます。本校は皆さん医師になる覚悟で入学していると思います。どんな医師になるのか、どんな人間になるのかを一緒に考えていきましょう」と述べたことがあります。ドクターロードを通じ、良医になるためのベースを身に付けている本校の生徒ならではの発言としてとても印象に残っています。

— 授業以外での特長はどこにありますか。

生徒全員が3年間同じ場所で生活をする全寮制というものです。寮は10畳の完全個室で2畳のウォークインクローゼットも完備しています。かつての卒業生が一番驚くのが寮の環境の素晴らしさです。セキュリティ面も配慮されています。本校の寮は教育寮なので、舎監と寮職員が生活をともにしながら、3年間サポートします。入学時は中学を卒業したばかりで皆頼りなく見えますが、3年生になるころには心も体も本当に逞しくなります。共同生活の経験が生徒を大きく成長させるのだと思います。

約30人が医科大学へ推薦入学

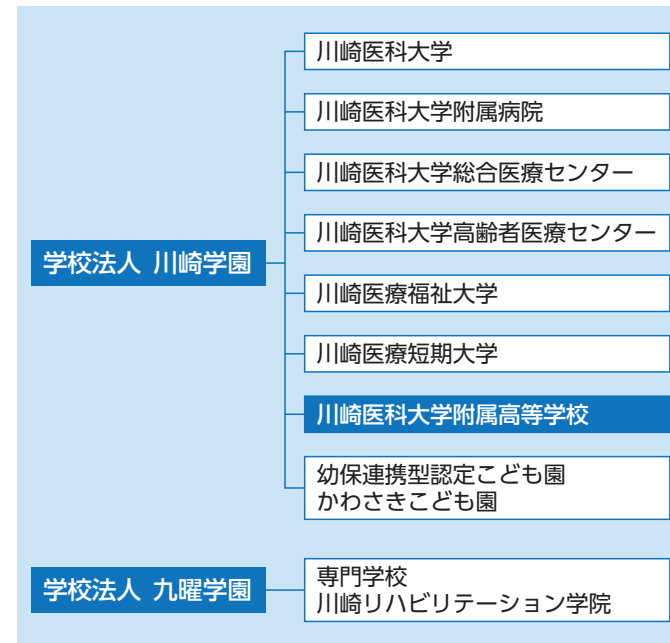
— 医科大学への推薦選抜について教えてください。

医科大学の募集要項に本校のみが対象の学校推薦型選抜の定員が明記されており、約30人の枠が例年確保されている点が特長です。推薦書には「医学を学ぶ能力と適性」という項目があるので、そこが重要になります。良医を目指すために9年一貫教育というシス



竹田義宣校長

医師への夢を強力にサポートする川崎学園ネットワーク



テムをとっているのが、学力だけでなく、良医に必要な「知・徳・体」のバランスが大切になります。

— 高校入試の倍率はどの程度でしょうか。

専願入試と一般入試の入試問題の難易度や倍率は大きな差がありません。違いは、専願入試を受けて不合格の場合でも、一般入試で再チャレンジすることが可能な点です。倍率は年度によって異なりますが、1.5～2.5倍の範囲で推移しています。

医師を目指す生徒にとって最高の環境

— 受験生・保護者にメッセージをお願いします。

本校は全国で唯一の医科大学附属高校で、医師になる決意を持って入学してくる生徒にとっては最高の環境です。医科大学に必要な基礎学力を身に付けること

全国で唯一の医科大学附属高校

全国で唯一の医科大学附属高校という特長を生かし、本校では高等学校の3年間だけでなく、医科大学の6年間をも含めた「9年一貫教育」を実践しています。本校での3年間は『良医』という目標を意識した教育を展開します。医科大学での授業をはじめ、医学に対する基礎を固める充実した3年間を過ごすことで、その先の6年間の学びをより深く実りの多いものとしします。

開校以来の川崎医科大学への進学率

90.3%

本校卒業生1,781人中、川崎医科大学への進学者は1,608人(2022年度卒業生まで)で、進学率は90.3%に達しています。
※他大学を含む医学部進学率 94.3%

過去3年間(2021～2023年度)の川崎医科大学入試の倍率

附属高校からの学校推薦型選抜倍率	一般選抜倍率
1.2倍	22.8倍
志願者数74人 入学者数63人	志願者数4,062人 入学者数178人

ができ、医学や医療に関する本物の経験を深めることができます。医師になるために集まった仲間たちとの3年間の寮生活を全うすることで、共感性や思いやり、協調性、コミュニケーション能力といった良医に欠かせない資質が育くまれます。良医を目指す全国の受験生の入学を期待しています。



写真：川崎医科大学(左)、川崎医科大学附属病院(右)



医師へのインタビュー



テーマスタディ



医科大学体験実習



川崎医科大学総合医療センター見学

「良医」を目指す体験型授業 “ドクターロード”

医師は知識や技術だけでなく、その人格をも厳しく問われる職業です。本校では多彩な体験型の学びを取り入れた教育プログラムを実践。医学に関するさまざまな体験を通して、生徒一人ひとりの内面を磨き、『良医』となるための自覚を育みます。

Doctor Roadの主なプログラム

1・2年次に実施している総合的な探究の時間が「Doctor Road (ドクターロード)」です。川崎医科大学や3つの附属病院などで、医学に関する、横断的・総合的な学習を行うことを通して、「良医」を目指すためによりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成します。

現代医学教育博物館研修	現代医学教育博物館は、豊富な実物標本で現代医学の全般が学べる施設。1年次の1学期に施設で研修し、医学の歩みを学びます。
医師へのインタビュー	1年次に生徒自らが診療科を選択し、質問事項を考えて、川崎医科大学附属病院・川崎医科大学総合医療センターの医師に1対1でのインタビューを行います。
メディカルスクール・アワー	1・2年次に川崎医科大学の教員による高校生向けにアレンジした専門的で高度な授業を受けます。
3つの附属病院見学	1・2年次に川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センター、川崎医科大学高齢者医療センターの最先端の医療機器や医療環境を見学します。
旭川荘研修	社会福祉法人旭川荘は障がい者・高齢者のための関連施設。1・2年次に施設での実地体験を行い、医療福祉の現状を学びます。
テーマスタディ	2年次に3～4人のチームに分かれて、研究テーマを決め、調査や実験・観察を行い、発表します。医科大学の先生が審査員となり優秀なチームは表彰します。
医科大学体験実習	2年次に2～3人のチームに分かれて、川崎医科大学の基礎・応用医学の研究室で解剖学や生理学などの体験実習を行い、実習レポートを作成します。
卒業生講話会	医師として活躍している卒業生の本音の講演を聴きます。

『数学・英語・理科』を重視した独自の教育プログラム

医科大学の進学を視野に入れた、本校独自の教育プログラムを構築。将来、医学を学ぶために重要な基礎となる数学・英語・理科に重点を置き、徹底指導していきます。数学は問題演習による応用力、英語は「読む・書く・聞く・話す」の総合的能力、理科は物理・化学・生物の3科目すべての学力の育成を行います。プログラムは川崎医科大学との連携で実施するもので、川崎医科大学附属高等学校ならではのノウハウが凝縮されています。

少人数制を導入、生徒一人ひとりに目が行き届く環境

少人数制

生徒一人ひとりの学習を着実に伸ばすために、少人数制を導入しています。生徒一人ひとりの習熟度を確かめながら、必要に応じて放課後や土日の補習、個別指導などきめ細やかな指導を行います。

繰り返し学習の徹底で、着実に学力を伸ばす

本校のカリキュラムは、授業時間の多くを入試科目に充てています。特に医学を学ぶ上で重要な理数系科目は時間数を充実。継続的に繰り返し学ぶことで基礎力から応用力まで着実に身につけることができます。令和4年度からは医科大学でも使用可能なタブレット端末を一人一台ずつ導入し、授業などで活用しています。

授業時間外でも教員が個別に対応

本校には授業時間外でも勉強や進学について、いつでも教員に質問・相談できる環境があります。教員室の前にはホワイトボード、個別の学習スペースがあり、教員がその場ですぐに質問に答えたり、勉強を教えたりすることができます。



生物実験



個別指導などで自学自習をサポート



学習室での質問対応

できるだけ繰り返すことが重要。高大連携の視点で幅広く学ぶ。

大学に入っても、医師になっても、英語論文の読解と作成が不可欠で、そのための基礎を修得します。重要なのはできるだけ何度も繰り返すこと。自転車に乗れなくても何度も練習すると乗れるようになるのと同じ理屈です。一度できるようになると忘れません。高大連携の視点で、医大でも受験しているGTEC[※]や、国際的な視野を育む英語教育も行っています。※GTEC(ジーテック/Global Test of English Communication)「読む・書く・聞く・話す」の英語の4技能検定



英語 浅田 麻衣先生

教員からのメッセージ



化学 八田修治先生

実験やiPad動画で理解しやすく。化学変化を論理的に説明する。

元素や化学式などの基本事項に加えて、物質の性質や化学変化の原理原則を論理的に理解することが重要です。理解しやすいように実験やiPadでの動画を活用。花火の色彩を炎色反応から考えるなど、実験を通じて身近な現象を論理的に説明できます。物質の人体への影響など医学的な見方で化学をとらえることも大切です。

男子寮



女子寮



仲間と過ごす全寮制の3年間で自立心と協調性が育まれ、一人ひとりが大きく成長

本校は全寮制。寮は学校敷地内にあり男子寮と女子寮に分かれ、完全個室でプライバシーが守られています。全体集会ができるラウンジや共同キッチンなどを完備しています。校舎棟へは専用通路でつながっており、セキュリティも万全です。寮生同士がコミュニケーションをとるスペースとしてフロアごとに談話室があり、それぞれが自主性、協調性をしっかり育める環境を整えています。3年間で仲間とともに過ごす中で、生徒一人ひとりが自分と向き合い、仲間同士で励まし合いながら、「医師になる」という同じ目標に向かって前進していきます。



男子寮／玄関
寮監・寮職員がともに生活しながら生徒を見守り、支えています

共用施設

セキュリティシステムを完備し、勉強に集中できる、快適で安全な環境

本校は寮と校舎棟が同じ敷地内にあり、便利で快適な環境のもと、規則正しい生活を送ることで勉強に集中することができます。寮では、寮監・寮職員が生活を見守り、生徒たちの毎日をきめ細やかにサポート。施設設備もカードキーなど万全のセキュリティシステムを完備し、安全を確保しています。



セキュリティドア
オートロック式で不審者の侵入を阻止。いつ誰が通ったか記録が残ります



売店
サービス棟にある高島屋の売店。文房具や軽食などを販売しています

食堂や売店を完備 学校生活を楽しく、便利にサポート

本校のサービス棟には食堂や売店（高島屋）を完備。友達とおしゃべりをしながらランチタイムを過ごしたり、毎日の生活に必要なものを購入したりすることができます。学校生活が快適で楽しく、便利に過ごせるようにサポートしています。



男子寮／個室
十分な広さを持つ個室は、集中して勉強できる快適な空間です



寮の食事
食事は栄養士と調理師が管理し、生徒たちの健康をしっかりサポートしています

部活動や学校行事などすべての経験が将来の糧に

全人教育の一環として、本校では生徒全員の運動部参加を義務付けています。スポーツを通じて身体を鍛え、人間性を養うことは高校生にとっても、将来医師として活躍するためにも重要です。また、学校行事など仲間と共有する時間は、高校生活の大切な思い出となり、将来の大きな糧となるはずです。



広報誌「いくさか」、「学年通信」

ホームページ、広報誌「いくさか」、「学年通信」で情報を発信

生徒たちの学びの様子、学校行事などのスクールライフをホームページ「附属高校の今」等や広報誌「いくさか」、「学年通信」を作成し、保護者に送付しています。また、年3回実施する保護者懇談会で成績状況や指導方針を保護者へ伝えていきます。

健康な身体づくりと人間性を育成 運動部へは全員が参加

スポーツを通じての健康な身体づくりと豊かな人間性の育成を目指し、全員が運動部に所属しています。現在、テニス部、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、剣道部、バドミントン部、バレーボール部の7つの部があり、授業後に活動を行っています。



部活動
運動部には生徒全員の参加を義務づけ。健康な身体と人間性を育みます

平日のタイムスケジュール

7:00 起床	7:15 課題配布・自習	8:00 点呼・登校・朝食	8:35 シャートホームルーム	8:40 午前授業	12:30 昼食・休憩	13:20 午後授業	16:10 部活動	17:30 夕食・入浴	19:05 学習準備	19:15 夜間学習	22:30 就寝準備等	23:00 点呼・消灯
------------	-----------------	------------------	--------------------	--------------	----------------	---------------	--------------	----------------	---------------	---------------	----------------	----------------

登校
「おはよう」の元気な挨拶から1日がスタート。寮を出る時は、自分のネームプレートを裏返します。これが「外出中」のサイン。

昼食
昼休みは、友達とおしゃべりしながら楽しくランチ。メニューは日替わりでバリエーションも豊富。「おいしい」と評判の学食です。

入浴
寮に戻ってゆっくり入浴。昼間の疲れを癒して気分をリフレッシュ。夜間学習に備えます。

授業
みんな真剣なまなざしで授業に集中。少人数だから丁寧に教えてもらえるし、分からなところはすぐに質問できます。

部活動
生徒全員が運動部に参加。好きなスポーツに熱中できること、仲間同士で触れ合えるのが大きな楽しみです。

自学
寮の「点呼・就寝」は23時。この時間を過ぎても勉強に取り組む生徒もいます。「自学」の習慣が身につくのも本校の特長。

将来、自分の子どもにも受験を勧めたい

私の両親は医師ではありませんが、兄の夢が医師になることでした。優しく、頼り甲斐のある兄と一緒に働きたい、と医師を目指しました。私は医師の子どもが多い都内の中高一貫校に通っていたので、医学部推薦枠を確保することも一般受験で合格することも難しいと思っていました。そんな時にこの高校を見つけ、学校説明会に足を運びました。現役で医学部に行ける確率がとても高く「こしかない」と決めました。

高校入学直後は寮生活や友達と馴染めるのか不安でしたが、心配はすぐに解消しました。少人数という点は附属高校の魅力の一つです。お互いを詳しく知ることができ、時には意見が合わないこともあります。大学に入った今でも深い関わりを持つことができます。高校生の頃は、当たり前のことを

当たり前になすことを心がけました。例えば遅刻をしない、学校を休まない、提出物をきちんと出す、毎日少しでも勉強することなどです。学校や寮の先生が全面的にサポートして下さるので、楽しく学校生活を送ることができます。

ドクターロードでは、川崎医科大学附属病院の医師に1対1で行う「医師へのインタビュー」が強く印象に残っています。現役医師を目の前にすると身の引き締まる思いがしますが、自分の歩んでいる道はここに繋がっているのだと実感し、医師になりたいというモチベーションも益々高まり、日々の勉強に力も入ってきます。

高校3年生の2月には、医科大学入学前研修として骨学実習などを学びました。医科大学で人骨を実際に触りながら骨の名称を日本語・英語・ラテン

語で覚えます。この事前学習により、附属高校出身者は大学入学後もスムーズに授業を受けることができます。

最後に、受験生の皆さんにメッセージを伝えたいと思います。この高校を受験の選択に入れられるということは、大変恵まれたご家庭に生まれ育っていらっしゃると思います。親への感謝を忘れず、入ったからには医科大学と一緒に勉強しましょう。将来私に子どもができて医師になりたいと言ったら、最初に附属高校を勧めます。こんなに確実に医学部進学できる高校は、世界中を探してもありません。



卒業生が語る「私の川崎医科大学附属高等学校」

医学部に進学できて充実した青春も送れる

医師である父の影響で医学部に行きたいという思いで勉強に取り組んでいました。中学2年生の時に両親から「9割以上の方が医学部に進学できる高校がある」という話を聞き、附属高校を知りました。近年の医学部の受験戦争はとても激しく、どれだけ時間や労力を費やしても合格を勝ち取れる保証はありません。しかしここに入學して、きちんと勉強すれば高い確率で医学部に行くことができます。これは唯一無二の長所だと思います。

附属高校の勉強についていけるか不安に感じる方もいるのではないのでしょうか。しかし、心配はいりません。少人数制を生かして、先生方がそれぞれの生徒に合ったレベルの指導を丁寧に行ってください。

また、部活動は活動時間が16時10分から最も遅い場合でも18時までと

短いです。バドミントン部とバレー部が人気で、どちらも校内大会が開かれます。多くの方が初心者であるため、どの部活動に入ったとしても楽しく活動できると思います。

全寮制も附属高校の特長の1つです。テスト前や3年時には寮のラウンジで夜遅くまで友人と一緒に勉強したり、休日には自転車に乗って色々なところに遊びに行ったりしました。また、寮で過ごすには洗濯、掃除、ゴミ捨てなど身の回りのことを自分で行わなければならない。高校生から親離れするのは少し寂しい気もしますが、寮での生活は自立するための準備期間だと考えています。

その他に個人的に良い制度だと思ったのが、学習室での夜間学習です。19時15分から3時間15分を学習室で勉強します。学習室には、昼間教えてく

ださる先生方に加えて、外部から各科目の先生が来てくださって、私たちが苦手な科目の補習をしてくださり、自由に質問することもできます。この制度によって周りが勉強している環境に身を置けます。

最後に勉強はしなければなりません。附属高校で習ったことをきちんとものにしていけば、医学部に入学できます。そして友人達とかけがえのない思い出の日々を作ることできます。医学部に進学できて、充実した青春の日々も送れる学校はこしかないのではないのでしょうか。

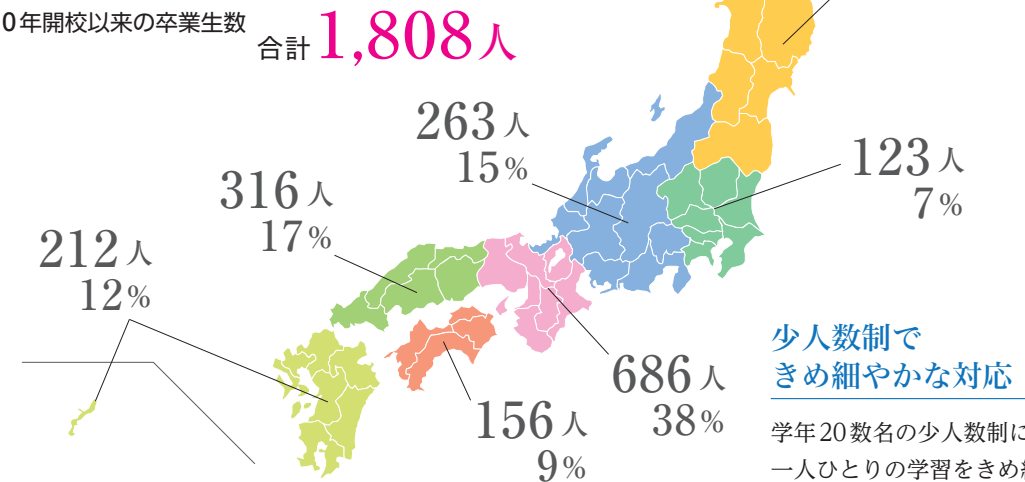


データで見る 川崎医科大学附属高等学校

全国から集まる良医をめざす生徒たち

北海道から沖縄まで全国から本校で学ぶ生徒が集まっています。全員が寮生活ということもあり、安心して学生生活を送れます。

1970年開校以来の卒業生数



少人数制で きめ細やかな対応

学年20数名の少人数制により、一人ひとりの学習をきめ細かくサポートできます。

在校生生徒数 (2023年度現在)

	男	女	合計
1年	11人	11人	22人
2年	13人	15人	28人
3年	13人	14人	27人

川崎医科大学附属高等学校の施設

本校キャンパスは市街地から少し離れた豊かな自然の中にあり、静かな環境で勉強に集中することができます。また主要な施設は通路でつながっており、移動のたびに外に出ることはなく、安心安全な学校生活を送ることができます。

- 校舎棟
- サービス棟
- グラウンド
- 体育施設
- 男子寮
- 女子寮



校舎棟マルチメディア教室



体育館

川崎医科大学の入試データ (2023年度一般選抜)

	計	男	女
志願者数	1284人	817人	467人
一次合格者数	403人	269人	134人
入学者数	49人	31人	18人
倍率	26.20倍	26.35倍	25.94倍

川崎医科大学の国家試験合格状況

2023年 (第118回)	受験者数		合格者		合格率
	新卒	既卒	117人	107人	91.5%
総数	16人	13人	133人	120人	81.3%
					90.2%

Q&A

Q1 入試にはどんな種類がありますか？

専願入試(定員20名)と一般入試(定員15名)の2種類があります。専願入試が先に行われ、専願入試受験者も再度、一般入試に出願することができます。

Q2 寮生活について教えてください。

中学校を卒業したばかりの生徒は不安を抱いて入学してきます。そうした不安を舎監や寮職員が生活面でサポートし、同じ目標を持つ仲間たちと切磋琢磨しながら3年間を過ごします。卒業生へ寮生活のイメージをざくと、「親離れ」「親への感謝」「自立」「規則正しい生活習慣」「仲間」「先輩」「助け合い」といったキーワードが出てきます。

Q3 勉強についてのサポート体制を教えてください。

本校の授業は、医学部進学を見据えた学習計画書を全科目で作成。少人数制できめ細かな授業を計画的に実施し、生徒は基礎力から高度な応用力まで着実に学んでいきます。とくに数学・英語・理科は時間数を充実させており、放課後には全員参加の補習も実施。また授業時間外でも勉強や進学について、いつでも教員に相談できる環境を整えています。

Q4 部活動について教えてください。

スポーツを通じての健康な身体づくりと豊かな人間性の育成を目指し、生徒全員が運動部に所属。テニス部、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、剣道部、バドミントン部、バレーボール部の7つの部があり、授業後に活動しています。

オープンスクール・学校説明会等のご案内

公式サイト(下記URL参照)よりお申込みいただけます。

また、右記の二次元バーコードからもお申込みいただけます。



学校説明会 東京会場	令和6年5月12日(日)	①10:00~12:00 ②14:00~16:00	東京コンファレンスセンター・品川
学校説明会 福岡会場	令和6年5月12日(日)	14:00~16:00	TKPガーデンシティ 博多新幹線口
学校説明会 名古屋会場	令和6年5月19日(日)	14:00~16:00	TKPガーデンシティ PREMIUM名古屋新幹線口
学校説明会 大阪会場	令和6年5月19日(日)	14:00~16:00	新大阪丸ビル別館
第1回オープンスクール	令和6年7月21日(日)	10:00~12:30	川崎医科大学附属高等学校
第2回オープンスクール	令和6年8月25日(日)	10:00~12:30	川崎医科大学附属高等学校
第3回オープンスクール	令和6年10月27日(日)	10:00~14:00 [※] <small>※入試対策セミナー実施のため、終了時刻変更の可能性あり</small>	川崎医科大学附属高等学校
学校見学会(11月)	令和6年11月23日(土)	10:30~12:30	川崎医科大学附属高等学校
学校見学会(12月)	令和6年12月25日(水)	10:30~12:30	川崎医科大学附属高等学校

今後、日程が変更する可能性があります。最新情報は本校Webサイトからご確認ください。

「親子で医師の道へ
ファミリートーク」
は公式サイトでご覧いただけます。



川崎医科大学附属高等学校

〒710-0002 岡山県倉敷市生坂 1661
TEL.086-462-3666 FAX.086-462-7444
E-mail highsc@med.kawasaki-m.ac.jp
<https://s.kawasaki-m.ac.jp>